

なぜ、問題自動作成ソフトを作ったのですか。



数学の授業をする森孝太郎先生＝大任町立大任中

先生
聞かせて

教育2014

大任町立大任中学校 森 孝太郎先生(39)

数学は積み重ねの学問 復習の徹底必要

表示される。

基礎学力を確実に身につけさせたい。その思いから、パソコンの表計算ソフトを応用し、数回のクリックで計算問題などの学習プリントが作れるソフトを編み出した。操作は簡単だ。計算問題では、「乗法」「除法」「中学1年・数学・4月」など、プリントにしたい学習内容や学習時期を選び、「20問」など問題数をクリックするだけ。自動的に数字が組み合わされ、計算問題が並んだプリントが表示される。それを印刷すればできあがりだ。「問題変更」を選ぶと、がらりと数字が入れ替わったプリントが

表示される。専門は数学。授業では最初の5分間、プリントで復習させる。1月下旬、1年生の授業で配った計算問題は、昨年11月までに習った内容だった。「常に復習することが大切。どこかが抜けたままでは、新しい分野に入っても、つまずいてしまう」

福智町出身。九州工業大で機械システム工学を学んだ。1997年から中学校の教壇に立つ。

ほどなく、1年生の最初に習うプラスとマイナスの数の計算でつまずき、そのままになっている生徒が少なくないのを知った。正負の数がまざった足し算はできていたのに、かけ算を習って混乱し、足し算まで間違ってしまう子がいた。

「数学は積み重ねの学問。復習の徹底が必要だ」。大学などで学んだプログラミング技術を生かし、2006年度

に復習プリントを作れるソフト開発をスタート。翌年度から使い始めた。確かな手応えを感じている。1年生でみると、大半の生徒がプリントの正答率9割以上を維持しているという。

当初作ったのは数学だけだったが、その後、漢字の読み書きや英単語など他教科も追加。ソフトは県教育委員会のホームページに掲載され、他校でも使われるようになった。

評判が広がり、日本マイクロソフト社が主催する今年度の「教職員ICT(情報通信技術)活用実践コンテスト」で、最高の優秀賞を受賞。今春には、スペインで開かれる世界大会に出場する。

ソフトは、県教委の「学びの道場」(<http://www.fukuoka-manabi.jp/life-ray/ja/>)からダウンロード可能。(山下知子)